

シルバー文化展に「等身大オブジェ」登場



今年もシルバー人材センターによる第6回「文化展」が10月4日～7日まで開かれ60名が102点の作品を出展しました。うち会員以外の方の出展は26名、39点でした。

今年のおブジェは等身大の高齢者パネルを4体制作しました。会場の入口でオブジェが迎え、会場内でも3体のオブジェが楽しませてくれる空間。会場にはシルバーらしい遊びの空間が生まれました。

また会場中央に設営された交流スペースには出展者も参加して作品を話題に談笑の花が咲きました。

参観者は一つ一つの作品に足を止め、それぞれに「美術の秋」を楽しんでいました。



文化展への出展「紅葉の一休寺と和尚さん」

10月4日に精華町役場の交流ホールで開かれているシルバー文化展を見に行きました。そのなかでひとときわ目を引くキャンバス作品があり、油絵かな？と思って近づいてよ～く見るとそれは和紙を細かくちぎって貼り付けた和紙画だったのです。

私たちがよく知っている「ちぎり絵」なのですが油絵タッチに紅葉の一休寺と和尚さんをみごとに描かれています。この和紙画が91歳になられた福味清子さんの作品だときいてぜひお話を伺いたいとお願いしお目にかかりました。

お会いした時、椅子に腰かけておられた福味さんが、ずっと立ちあがり背筋を伸ばして小走りに近づいて来られた姿はとてもお聞きした歳の方の身のこなしとは思えないくらい若々しく凛とした姿勢に驚きました。

福味さんが和紙画を始められたきっかけは精華町の社会教育の一環として始まった和紙画教室の講習会に参加したのが始まりで、2年位習ったあとサークルとして5～6年の経験を積み現在も続けているとの事です。

作品はJAの広報誌「あとれ」の表紙に載っていたカラー写真を基にして、拡大コピーし彩色した和紙を鉄筆でちぎって幾重にも幾重にも糊で貼り付けて描いていくのだそうです。

この作品はキャンバス10号の大きさと和紙画教室の時に制作するので完成まで5～6か月かかったそうで随分時間と根気のいる手作業で、肩は凝りませんか？と聞くと笑いながらあまり苦にならないわとのことです。

